

語録】

「福島市の現時点の空間放射線量で、健康上のリスクは全く考えられない。」

「洗濯物は屋内に干して。」

「見えないものに対する不安があるだろうが、状況は少しずつ改善している。」

「内部被爆で傷ついた細胞は新陳代謝で直る、放射性物質はマスクをすればすぐ消えるから花粉より良い。」

「これから福島という名前は世界中に知れ渡ります。福島、福島、福島、何でも福島。

これは凄いですよ。もう、広島・長崎は負けた。福島の名前の方が世界に冠たる響きを持ちます。ピンチはチャンス。最大のチャンスです。何もしないのに福島、有名になっちゃったぞ。これを使わん手はない。何に使う。復興です、まず。震災、津波で亡くなられた方々。本当に心からお悔やみを申し上げますし、この方々に対する対応と同時に、一早く原子力災害から復興する必要があります。国の根幹をなすエネルギー政策の原子力がどうなるか、私にはわかりません。しかし、健康影響は微々たるものだと言えます。

唯一、いま決死の覚悟で働いている方々の被ばく線量、これを注意深く保障していく必要があります。ただ、一般の住民に対する不安はありません。」

「放射線の影響は、実はニコニコ笑ってる人には来ません。クヨクヨしてる人に来ます。

これは明確な動物実験でわかっています。酒飲みの方が幸か不幸か、放射線の影響少ないんですね。決して飲めということではありませんよ。笑いが皆様方の放射線恐怖症を取り除きます。でも、その笑いを学問的に、科学的に説明しうるだけの情報の提供がいま非常に少ないんです。是非、今の私の話を聞いて、疑問が沢山あると思いますから沢山質問してください。これは講演会でも講義でもないんです。皆様と私のキャッチボールなんですね。」

・退避の初動について

最初の1週間、想定外の事象が連続し、情報交換がなかなかうまくいかず、諸対応に遅れが出たことが残念です。国の行った住民避難の方法が通常と違い、事の重大さがまず理解されました。通常は事故サイトから10キロが緊急避難範囲と想定されていました。まず屋内退避の勧告を出し、環境中の放射線量が下がらないときに避難勧告を出します。今回は、20キロ圏内から避難させた後、さらに30キロ圏内で屋内退避の勧告がでました。安全な所まで下がったのであれば、そこでさらに屋内退避というのがおかしいのです。今回は、次々に原子炉のトラブルが発生し、未曾有の事態です。放射性物質が断続的に出続けています。放出されている放射性物質は複数あり、それぞれ放出量も違います。測定モニタリングを続け、30キロ圏内の屋内退避が間違っていないかも検討していかなくてはなりません。

・放射性物質の影響をチェルノブイリと比較して

放射性物質はいたる所に降り注いでいます。

一方で、放射性物質はトレーサーと呼ばれるように非常に検出され易い物質であり鋭敏な値を出します。現在検出されている量が即、健康に影響があるわけではないことは明らかです。チェルノブイリの原発事故をフィリピンのピナツボ火山の噴火と考えると、今回の事故は、普賢岳や新燃岳の噴火に例えられます。どちらも、近くにいと、火山灰や火山流でやけどしたり命の危険がありますが、遠く離れば被害は減るところで共通します。違いは、ピナツボ火山の影響は地球上の広範囲に広がったのに対して、普賢岳や新燃岳の噴火の影響が及ぶ範囲は狭いという所です。

福島第一原発から20km離れると、火山の噴出物が灰になるように、放射性物質の影響も弱まります。これまでに放出されている放射性物質は、拡散し薄まり、量がどんどん減っていきます。体についても洗い流せば大丈夫です。微量でも被ばくすれば危ないというのは、間違いです。

・現状の環境における発がん率

人体にも通常、放射性カリウムなど 1000 ベクレル?5000 ベクレルの放射性物質があります。またラドン温泉などに行けば、当然ラドンを吸い込みます。

これらの放射性物質は量が少なければ (10?500 μ Sv) 比較的短い間では問題ありません。今回ほうれん草や牛乳から規定値を超えるヨウ素 131 やセシウムが検出されていますが、1回や2回食べても問題ありません。またヨウ素 131 は半減期が8日と短くすぐに影響が落ちていきます。

1度に 100mSv 以上の放射線を浴びるとがんになる確率が少し増えますが、これを 50mSv までに抑えれば大丈夫と言われています。原発の作業員の安全被ばく制限が年間に 50mSv に抑えてあるのもより安全域を考えてのことです。

放射線を被ばくをして一般の人が恐れるのは将来がんになるかもしれないということです。そこで、もし仮に 100 人の人が一度に 100msv を浴びると、がんになる人が一生涯のうちに一人か二人増えます (日本人の 3 人に一人はがんで亡くなります)。ですから、現状ではがんになる人が目に見えて増えるというようなことはあり得ません。

・一般のかたの心配について

原発から 10km から 20km の圏内にいて避難した人は、放射線量で 1mSv 程度浴びたかもしれないが、健康に与える影響は、数 μ Sv も 100mSv も変わりがない、すなわちがんの増加頻度に差がないのです。

また、1mSv ずつ 100 回すなわち累積として 100mSv 浴びるのと、一回に 100mSv 浴びるので影響は全く違います。被ばくについて心配しなくてはいけないのは、福島第一原発の中で働いている人たちです。彼らは、被ばくを避けながら決死の覚悟で働いています。彼らの健康をいかに守るかを考えていかなければなりません。一般の人は、まったく心配いりません。

低い放射線被ばく線量の健康に与える影響は証明することができないと言われています。そこから、「証明できないがゼロと言えない」→「わからないから心配」と考えるかもしれませんが、これは間違いです。放射能は目に見えないし匂いもしないから不安ですが、科学の力で数値化することができます。被害を防ぐための一つの手段が「測る」ということです。パニックになってはいけません。社会の一員として理性ある行動をお願いします。

・今後心配していることとお願い

放射性物質が広範囲に飛び散っているので、今後食物連鎖を通じて、汚染された食べ物が市場に出るのが困ります。まずは、どの地域でどういう汚染がでているのかモニタリングし、データをきちんと出すことが必要です。それらを照らし合わせて、食べたときの被ばく線量を推定し、1年間に数十 mSv?100msv に近づくようであれば、規制が必要になります。食の安全に厳しい日本では監視体制が強化されると思いますが、逆に規制が風評被害を及ぼさない配慮が必要になります。福島県民が背負った震災、津波、そして原子力災害という三重苦に対して、また東日本を襲った国家存亡の非常事態にすべからく国民がその重荷を分担する覚悟が今こそ必要であり、そのことが古来山紫水明の山島と呼ばれた大和の国の“和”を大切にパニックならず落ち着いて行動する日本の誇るべき文化ではないでしょうか。